



Data

監督・脚本・原作：矢口史靖
出演：三吉彩花／やしる優／chay
／三浦貴大／ムロツヨシ／
宝田明

■ショートコメント■

◆本作のうたい文句は、「こんなミュージカル、今までになかった！この夏、「新しい」「面白い」「楽しい」の三拍子そろった「コメディ・ミュージカル」が公開！。たしかに「ミュージカルが苦手な女子が、アクシデントで「音楽が聞こえると、突然歌い踊り出すカラダになっちゃって…」という本作の設定は面白い。

本作のヒロイン鈴木静香役を演じる三吉彩花の魅力はイマイチだが、本作冒頭から登場し、ロードムービーとなる本作の軸となる人物、マーチン上田を演じるのは、何と御年85歳の宝田明。70歳の私ですらもはや足腰のおぼつかなさを自覚しているのに、何ともお元気なこと！

◆ミュージカルっていきなり歌って踊るから変！そんな、誰もが1度はぶつかるギモンを「逆転の発想」でストーリーの基盤に据えた矢口史靖監督の脚本はたしかに面白い。したがって、本作は「ミュージカルは苦手な人」にも納得できるかもしれない。

しかし、ミュージカルは音楽の良さが最大のポイントだが、「夢の中へ」「狙いうち」「年下の男の子」等のかつての名曲は面白くアレンジされているものの、本作のオリジナル楽曲とその振り付けは私にはイマイチ。そのため、斎藤千絵役を演じるやしる優は体重と同じように存在感があるし、元カレの結婚式に乱入した山本洋子 (chay) のキャラも面白いのだが、全体としてはイマイチ・・・。

◆私が中高校生時代に観て感動を受けた二大ミュージカルは『ウエスト・サイド物語』(61年)と『サウンド・オブ・ミュージック』(65年)だが、両作は楽しいミュージカル仕様ながら、れっきとした社会的主張があった。しかして、本作でも静香は導入部では「一流企

業に就職できた勝ち組OL」という設定だったが、物語が終わる時点では同社から期待される新プロジェクトの一員としての自分に見切りをつけ、一週間のドタバタ劇（ロードムービー）を共にした千絵のスタジオに向かうという大転換を見せる。したがって、本作もある意味での女の転機を描く社会派ミュージカル？そんな見方ができるかもしれないが、いかにも薄っぺらいからやっぱり私にはイマイチ・・・。

2019（令和元）年8月21日記